

第30回 山口県国際教育研究大会
大会テーマ 『世界とつながり、心豊かに生きる子どもの育成』
令和5年8月6日（水） 於：山口県セミナーパーク

会長挨拶

30回目という大きな節目の大会となりました。コロナ禍を経験した私たちにとって、未知の世界で未知の自分を開拓する時代、何かに挑戦し人生に挑戦する時代になってきたと感じています。

本大会では、国際教育や小学校外国語教育のあり方を学びながら、国際的な視野と地球市民的な意識をもった、「世界とつながり、心豊かに生きる子どもの育成」をめざし、みなさんと一緒に研修を深めていきたいと思えます。



【第1部】 帰国報告会 「住んでみたらこんなところだった」

派遣国の歴史や文化、街の様子、実際に生活して感じたこと、そして、コロナ禍の学校生活について詳しく紹介してくださいました。



上海日本人学校浦東校 派遣教員

世界で唯一高等部を有する日本人学校です。

コロナ禍で、はじめの半年間は日本からオンライン授業を実施し、10月からようやく対面での授業を行うことができました。

現地校との交流などは行うことができなかったため、自身のフィールドワークを大切にして現地の文化を学び、子どもたちの学びに生かしていきました。

本屋や演奏会で見かける中国人は家族連れが多く、その場に応じた公共のマナーを教えていたのが印象的でした。

多くの日本人と出会い、多くの経験をすることができました。



蘇州日本人学校 派遣教員

中国での生活は、スマートフォンが命綱でした。物品の購入はもちろんのこと、コロナの陰性証明、PCR検査の証明など、全ての情報をスマートフォンで管理していました。

教育局からの通達は絶対で、突然知らされたり、すぐに内容が変わったりすることが何度もありました。公共交通機関では、100%といってよいほど必ずお年寄りに席を譲り、教師がとても尊敬されていました。

コロナ禍に加え、PM2.5の影響で屋外での活動がほとんどできず、学力が高いのに対し、体力向上が大きな課題でした。特別な活動ができない分、日々の授業づくりと学級づくりの大切さを感じた3年間になりました。



デュッセルドルフ日本人学校 派遣教員

再任用として赴任しました。地域を舞台にした教育活動が実践できることを、とても楽しみにしていました。

積極的に現地のいろいろな場所やイベントに出かけ、山口県との多くのつながりを知ることができました。自身の学びを子どもたちの学習に生かし、進んで授業公開をしました。

8割近くの子どもが、自分の希望で日本人学校に来ているのではないという現実を受け止め、子どもたちに寄り添う教育を大切にして実践を重ねました。

一方、周りに多くの補習校が存在していることから、日本人学校が選ばれる学校をめざす必要と責任を強く感じました。

【第2部】 ワークショップ 「楽しく学べる国際教育のワークショップ」

JICA中国山口デスクのコーディネータで、教室ですぐに使える国際教育について、アクティビティを体験しながら学びました。



○ 異文化体験ゲーム「バーンガ」※動物版

15枚のカードを、封筒に入れられた指示通りに協力して並び替えました。ただし、話したり書いたりして伝えてはいけません。2回目は、グループで指示が変わり、3回目は、異なる指示を受けた他のグループのメンバーが入って、カードの並び替えに挑戦しました。ゲームを通して感じる疎外感から、異文化で過ごしている気持ちに共感しました。



① 考えてみよう！ヨルダンの「何でだろう？」

ヨルダンの小学校で活動しているJICA海外協力隊が撮った写真を見て、「どうしてそのような行動をとるのか、どうしてそのような状況になっているのか」について、グループで話し合いました。



② イスラム教徒の生活を学ぼう！

イスラム教徒の生活を、クイズを通して考えました。

【第3部】 ワールドカフェ 「世界の話から国際教育について考えよう」

山口市在住の26名の外国人をゲストに迎え、グループに分かれて話を聞きました。今年は家族で参加して下さったゲストもあり、子どもたちも母国の文化を紹介してくれました。英語でやりとりしているグループもあり、とても盛り上がっていました。今年も、ちょっとした世界旅行気分を味わうことができました。

〔ゲスト〕 山口市国際交流員、山口市ALT、山口大学留学生





【第4部】 講演会 「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」

文部科学省初等中等教育局視学官 直山 木綿子 様

全国学力学習状況調査や英語教育実施調査の結果を受け、今年も「言語活動を通じた」指導の重要性についてご指導いただきました。

言語を理解したり表現したりするための練習を必要に応じて行いながら、単元の1時間目からしっかりと言語活動を行っていくことの必要性や指導のあり方を、実際の授業から紹介してくださいました。その中で文構造を身につけることができるよう、子ども自身が伝えたい表現を考え、必ず口答で文発話させることが大切であることをあつくご指導いただきました。

